

本日(4月24日)の株式市場の下落に関して

大和証券投資信託委託株式会社

本日の株式市場は、TOPIXが45.64ポイント安(2.60%安)の1,710.76ポイント、日経平均株価が489円56銭安(2.81%安)の16,914円40銭となるなど、大幅に下落しました。本日の市場の下落に関して、当社では以下のように考えております。

株価下落の要因

原油価格の急騰

先週末の米国市場では原油価格が急騰し、初めて1バレル=75ドル台に乗せました。これを受け本日の株式市場では、景気や業績への悪影響が強く意識されました。原油価格上昇の要因は、産油国であるナイジェリアの政情不安や、同じく産油国であるイランと国際社会との関係悪化などです。

円高の進行

先週末の東京市場では1ドル=117円台であったドル/円相場は、海外市場で116円台に入り、週明けの東京市場では早朝から115円台となりました。本日の株式市場では、輸出関連株中心に急速な円高に対する懸念が強まったようです。

これまでの上昇の反動

足元の株式市場は、3月8日から4月7日まで1ヶ月間で10%を超える上昇となっており、やや過熱感もみられる状況でした。昨年来の高値圏に位置していることもあり、何らかのきっかけがあれば、当面の利益を確保しようという売りが出易い局面だったと推測されます。

本日の株式市場は、上記のような状態にあったところに、原油価格の急騰、円高の悪化などの悪材料が重なったことで大幅な下落につながったと考えられます。

今後の見通し

当面は本日の下落要因となった原油価格、為替相場の動向に対し神経質な展開が続くと思われれます。原油高、円高が続くようであれば、短期的に株式市場がさらに弱含むこともあると思われれます。

ただし、中長期的な原油価格の上昇傾向は、供給不安ではなく、好調な世界経済を背景とする需要増加から生じています。為替も、現在の水準は企業の想定レートより円安気味です。これらを考慮すると、先週末からの原油高、円高が直ちに景気や業績に悪影響を及ぼす可能性は低いと考えられます。

現在の日本経済は、景気回復・拡大の足取りが堅固になってきており、多少の外的ショックを吸収するだけの力は備わってきているとみられます。したがって、今後も景気・業績の持続的拡大は十分に期待でき、株式市場も中長期的な上昇基調は維持される可能性が高いと考えられます。

以上

大和投資信託
Daiwa Asset Management